

1 なん時 なん分 ですか。



こたえ

3 時 25 分



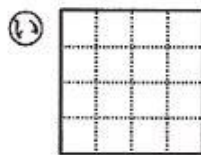
こたえ

9 時 56 分

問題	評価基準及び割合 (%) A ■ □ ▨ ▩				0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
1	(1)	A	C 1		C 2	平成23年度	92				17				
		正答	5:17		左記以外の誤答・無答	平成25年度	92				17				
						平成27年度	92				17				
	(2)	A	C 1	C 2	C 3	平成23年度	79				53				13
		正答	10:56	9:55	左記以外の誤答・無答	平成25年度	80				52				13
						平成27年度	75				83				14

1 時刻を正確に読むことができるかをみる問題である。正答率は (1) は92%、(2) は75%であった。(2) は前回より5ポイント下がっている。誤答を見ると、10時56分と答えた児童が前回より3ポイント増えた。このことから、短針を正しい数値ではなく、短針に近い方の数値を読み取ってしまう傾向があると考えられる。実際に針を動かす活動を通して、長針と短針の示す時刻を正確に読み取る力を身に付けさせる必要がある。また、学校生活の中で「給食の挨拶の時刻」や「学習を終わりにする時刻」などを教師用の時計を用いて児童に表させたり、読み取らせたりするなど、繰り返し時刻を読み取る活動を増やしていく必要がある。

2 ひろさをくらべました。あといではどちらがひろいでしょう。



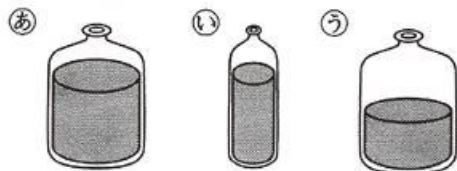
こたえ



問題	評価基準及び割合 (%) A ■ □ ▨ ▩				0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
2	A	C			平成23年度	88				12					
	正答	誤答・無答			平成25年度	88				12					
					平成27年度	92				8					

2 任意単位を用いて、広さを比べることができるかをみる問題である。正答率は92%と前回より4ポイント上がった。広さを比べる際に、重ねることができない場合は、単位正方形のいくつ分かで比べ、数値化することのよさを実感させたい。色板を並べたり、方眼を塗りつぶしたりといった活動をさらに意図的に取り入れて指導することが大切である。

3 びんに ^{がす}水が ^{はい}入っています。水が ^{いちばん}おいしいのは どれですか。



こたえ

あ

問題	評価基準及び割合 (%) A ■ □ ▨ ▮				0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%		
3	A	C 1	C 2	C 3	平成23年度	94	41
	正答	あ	い	左記以外の誤答・無答	平成25年度	94	41
					平成27年度	94	41

3 容器の形や、水面の高さに着目して、水のかさを比べることができるかをみる問題である。正答率は94%で、前回とほぼ同様の結果であった。誤答例の(い)を選んだ児童は、水面の高さには着目できたものの、容器の太さを考慮しなかったためと考えられる。容器の幅や底面の大きさが異なると、水面の高さが同じでもかさが違う場合があることを、実際に児童に活動させながら理解させることが必要である。また、どうして(あ)の水のかさが一番多いのかを、自分の言葉で表現させる活動も大切である。「高さは同じだけれども、底の大きさが違う。」や「底の大きさは同じだけれども、入っている水の高さが違う。」など、根拠をはっきりとさせ、筋道立てて説明させる機会を増やすことで、論理的に考える力を育てることができる。このような場面を積極的に取り入れるようにしていくことが大切である。

4 どうぶつたちが ならんで います。



(1) 「まえから 3びきめ」は どの どうぶつ ですか。

こたえ

たぬき

(2) 「うしろから 2びきめ」は どの どうぶつ ですか。

こたえ

とら

問題	評価基準及び割合 (%) A ■ □ ▨ ▮				0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	
4	(1)	A	C	平成23年度	97	3
		正答	誤答・無答	平成25年度	97	3
	(2)	A	C	平成23年度	94	6
		正答	誤答・無答	平成25年度	94	6
				平成27年度	98	2

4 数を用いて順序や位置を表すことができるかをみる問題である。「前から3匹目」が98%、「後ろから2匹目」が94%と、どちらも前回とほぼ同じ正答率であった。児童の中には数え始める基準が、はっきりしていない場合や集合数と順序数が混同している場合が見られる。教室でも、「前から何番目は誰?」「前から何人立ってごらん。」と児童に問いかける等、教師が日常生活の中で意図的に体験させるような指導が必要である。また、習熟を図るためには他教科の学習の中でも積極的に指導したい。

- ⑤ えほんの たてと よこの ながさを くらべます。
 ただしく くらべられる ほうほうは どれでしょう。
 () の中に ○を つけましょう。

あ わたしは、かるたを
みぎの えのように
ならべて、
いくぶんかで
くらべました。
()

い ぼくは、
いろいろな
ものを
ならべて、
くらべました。
()

う ぼくは、テープでしらべました。
はじめに、
たての ながさのところ
にしるしを つけました。
つぎに、そのテープを
よこに あてて くらべま
した。
(○)

問題		評価基準及び割合 (%)			0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%															
		A	C1	C2																
5	A				平成23年度	73	19	8												
	正答	あのみ または あとう	左記以外の 誤答・無答		平成25年度	74	18	8												
						※平成27年度	70	21	9											

【年度の横の記号は、☆：上学年より下りてきた内容、★：下学年より上がってきた内容、※：問題に変更を加えたものです。】

- ⑤ 正しく長さを比べることができるかどうかを見る問題である。本年度の問題より、現実の大きさにより整合性をもたせたり、幅を意識したりできるようにと、任意単位としてのクリップをかるたに*変更した。正答率は70%と4ポイント減り、⑤を含む誤答をした児童は21%と3ポイント増えた。問題変更の意図をくみ取るならば、幅をもたせたかるたになったことで縦横の区別なしに、ものそのものを任意単位と判断する児童がいることが分かった。指導の際に「消しゴム（任意単位）の縦を使うと○個分」と部分を説明に含めるなど、どの部分の長さを使ったのかをより正確に表現できるようにする必要性を感じる。また、量の比較の仕方、直接比較・間接比較・任意単位による比較・(普遍単位による比較)の指導においてそれぞれの比較方法のよさを実感し、十分な測定活動の経験を積むように指導を工夫する必要がある。



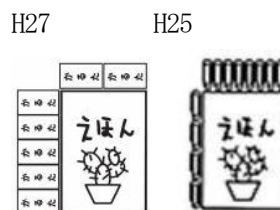
「かるたの長い部分を使うと絵本の横は2枚分」

「かるたの短い部分を使うと絵本の縦は5枚分」

何を使って任意単位の比較をしたのかということを確認し、その部分をそろえる必要があることに気付かせる。

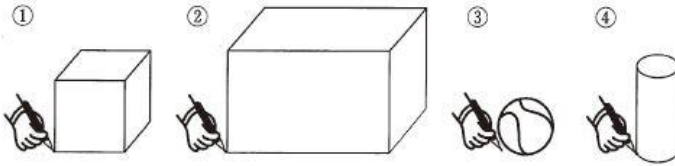
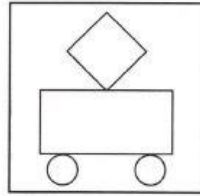
*H25 実施の問題では、クリップを提示していた。これをカルタに変更したのは、絵本の縦の長さを比べるためのクリップの大きさが現実ではそぐわないことと、カルタの幅に着目させなかったことによる。しかし、H25は「少ない個数の方が長く、多い個数の方が短い」、H27は「少ない枚数の方が短く、多い枚数の方が長い」ことから「比べられる」と結論付けた児童がいることも考えられる。

(参考)



⑥ つみきや ボールが ありました。
かたちを うつしとって みぎのような
でんしゃの えを かきました。
どれを つかったでしょう。

ばんごうを 3つ かきましょう。



こたえ

①	②	④
---	---	---

問題	評価基準及び割合 (%)			A	C 1	C 2	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%				
	A	C 1	C 2				■	□	▨	▧	
6				平成23年度	79	13	8				
	完答	③を含む	左記以外の 誤答・無答	平成25年度	78	13	9				
				平成27年度	81	12	7				

⑥ 目的に合わせて、平面の形を分解して捉えることができるかをみる問題である。完答は81%であった。正答率は上がっているが、球を選ぶ誤答をする児童が12%いた。円と球の形の共通点や相違点について体験的な理解をより進めることが肝心である。また、「まるい」といった端的な言葉だけでなく「ころがりやすい」「つみやすい」など機能的な側面から立体の特徴を捉えさせ、理解を進めることが大切である。また、形を写し取る活動の中で球を写し取ることを例にとり、安定して置けないためうまく写し取ることができないという経験をさせることも効果的である。